

「海鮮朝市“みなとまち”マル得体験ツアー」 アンケート集計結果（概要版）



平成 18 年 1 月

八幡浜港みなと観光交流促進協議会

I アンケートの概要

「海鮮朝市“みなとまち”マル得体験ツアー」の参加者 38 名に対してアンケート調査を実施した。

(1) 体験ツアーの目的

八幡浜市では地域の活性化を図るため、「みなとを活かした観光振興」に取り組んでいるが、体験・滞在型観光を取り入れた観光資源や観光ルートの開発を行い、観光客を魅力ある歴史的町並みや背後の商店街にも誘導していく仕組み作りが課題となっている。

また、地域資源を活用して通過・日帰り型から宿泊拠点型への転換を目指していくためには、県外、市外観光客の意識調査を行い八幡浜に対する「外部からの評価」を把握する必要がある。

こうした課題解決の手掛かりとなり得る情報収集のため、国土交通省の支援を受けて「海鮮朝市“みなとまち”マル得体験ツアー」を実施した。

(2) 体験ツアー実施日

平成 17 年 12 月 10 日（土）～平成 17 年 12 月 11 日（日）

(3) アンケート回収状況

アンケートはツアー終了後に回収した。

① 回収件数 : 38 件

② 回収率 : 100%

(4) その他

参加者 38 名のうち 4 名については、12 月 10 日の「郷土料理」（夕食）から参加した。12 月 11 日のフリータイムでは、この 4 名は前日体験できなかった「みかん摘み体験」を行い、他のツアー客（34 名）はボランティアガイドの案内で「八幡浜の町並み散策」を行った。

なお、多数のご意見を寄せていただいたが、重複した意見は集約するとともに、個人が特定できると思われるものについては一部変更した。

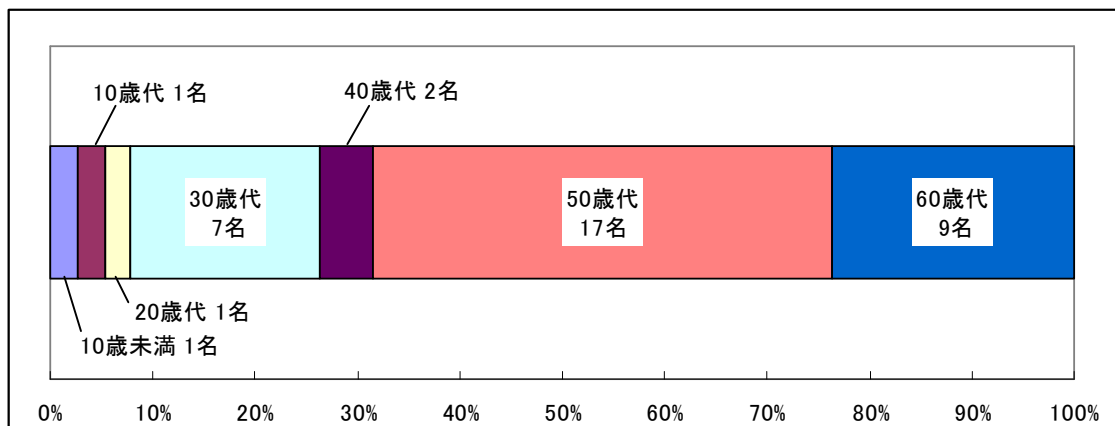
Ⅱ アンケートの集計結果

(1) 性別

ツアーには男性 17 名 (44.7%)、女性 21 名 (55.3%) 合計 38 名がモニターとして参加した。

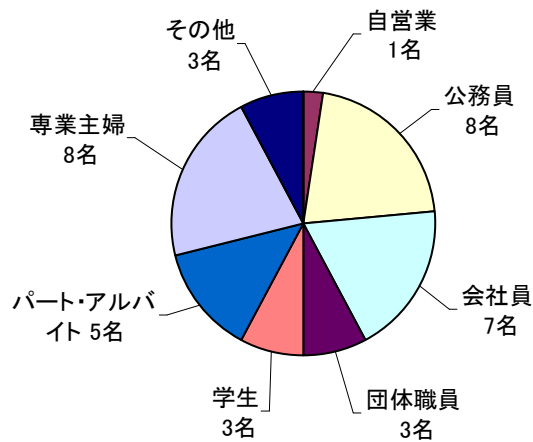
(2) 年齢

参加者の年齢は 50 歳代が 17 名、60 歳代が 9 名、30 歳代が 7 名と続いているが、50 歳代以上が 68.4% を占め、年齢階層にはやや偏りがあった。なお 70 歳代以上の参加者はいなかった。



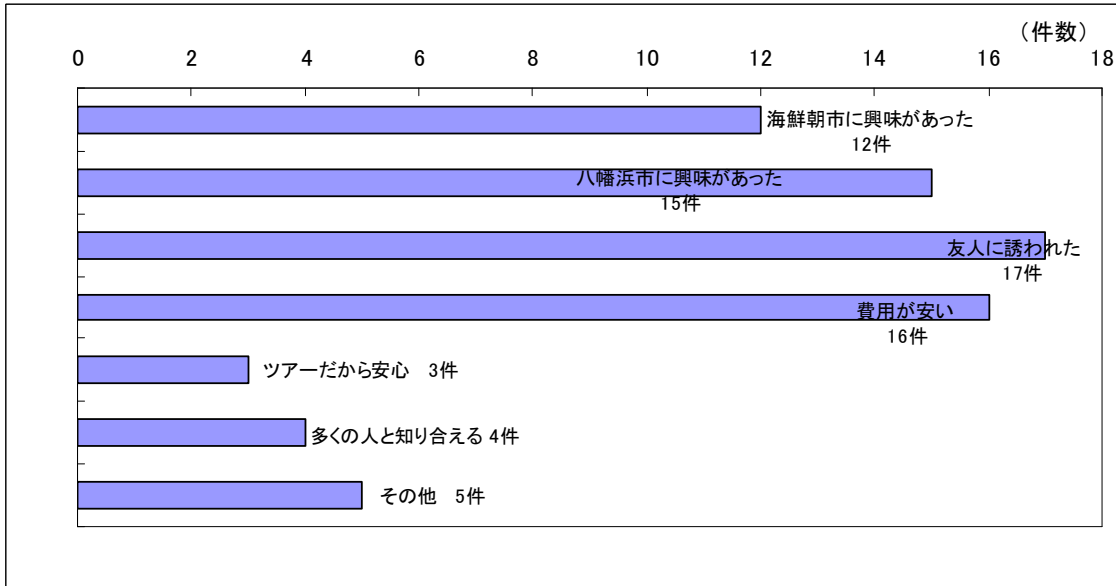
(3) 職業

参加者の職業は公務員、専業主婦、会社員、パート、団体職員、学生など様々な職種からの参加があった。その他は看護師、無職などである。



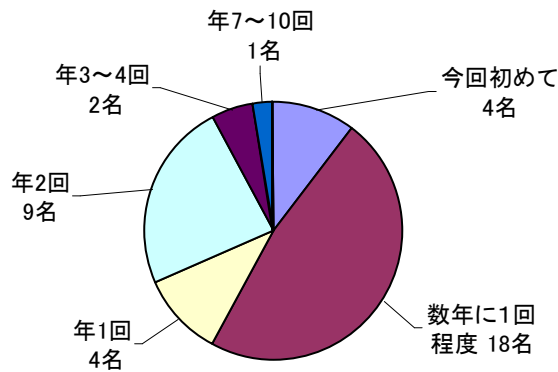
(4) ツアーに参加した理由について（複数回答）

ツアーに参加した理由としては「友人に誘われた」17件、「費用が安い」16件、「八幡浜市に興味があった」15件、「海鮮朝市に興味があった」12件と続いている。



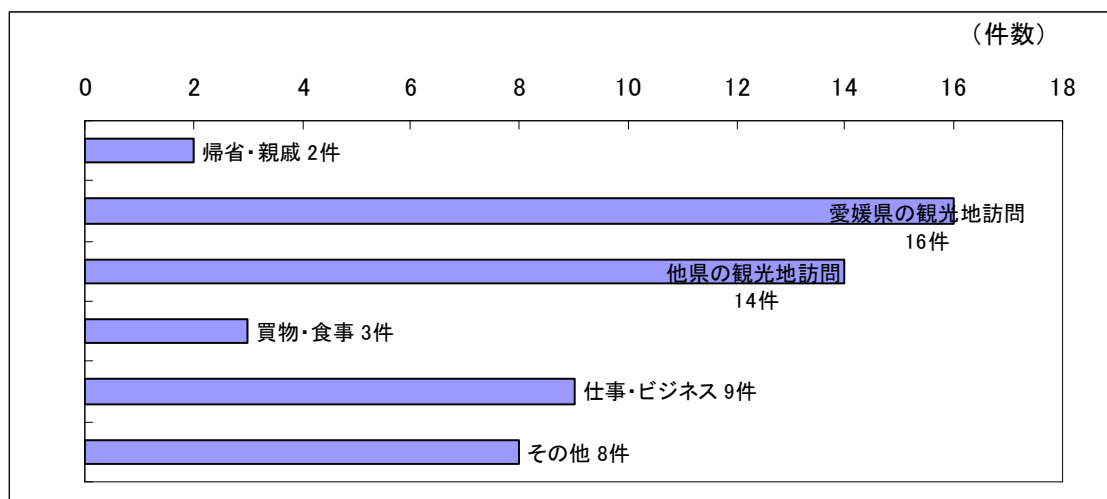
(5) 八幡浜を訪れる回数について

八幡浜を訪れる回数について、「数年に1回程度」と回答した人は18名（47.4%）であった。なお「年1回」以上来る人の合計は16名（42.1%）である。



(6) 八幡浜に来る主な理由について（複数回答）

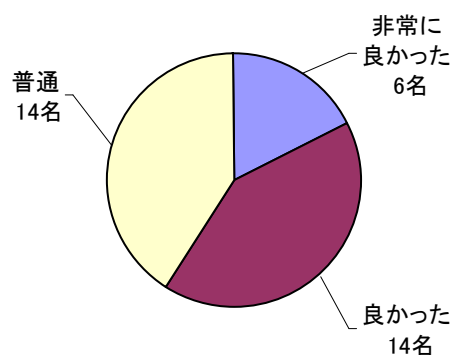
八幡浜に来る主な理由は、「観光地訪問」と回答した人が多い。その他の理由としては「八幡浜に友人がいる」、「四国 88 か所巡り」、「他県に行く時の通過点となっている」、「八幡浜の花火見物」などである。



(7) 保内の町並みについて

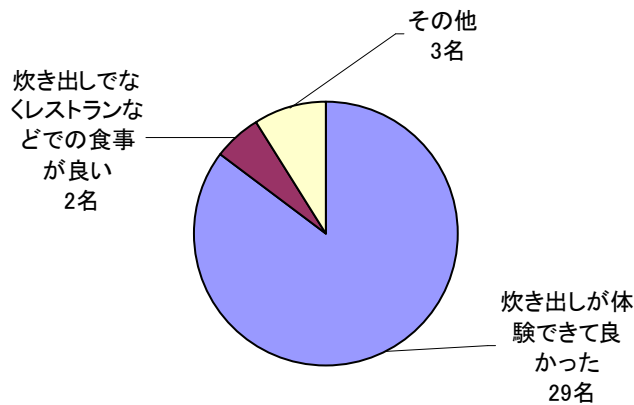
保内町明治の町並みウォッチングには 34 名が参加した。参加者の約 6 割が「非常に良かった」または「良かった」と回答している。なお、「あまり良くなかった」、「悪かった」と回答した人はいなかった。

保内の町並み案内は、ボランティアガイドの丁寧な案内で多くの人に好印象を与えている。しかし今回は人数が多かったので、説明が聞こえなかったという意見もあり、少人数のグループに分けて案内していく必要がある。また、笑顔とユーモアがもう少し欲しいという意見もあった。



(8) 公民館での炊き出しによる昼食について

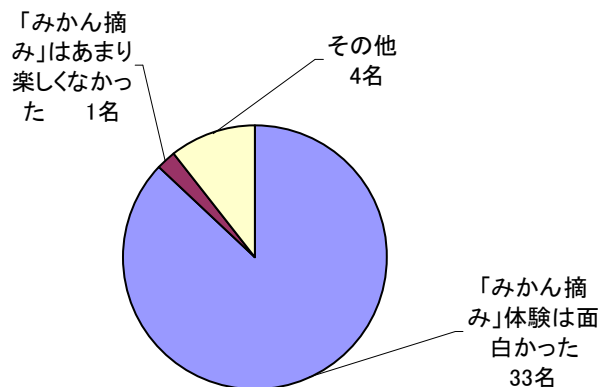
炊き出しによる昼食は、29名(85.3%)が「良かった」と回答している。しかし、2名は「炊き出しでなくレストランなどの食事」と回答しているが、うち1名は理由として「常に炊き出しで対応できない。また炊き出しでは地元にお金が落ちない」ためと回答しており、食事自体に関する悪いイメージはみられなかった。その他3名の意見は「公民館ではなくみかん農家で食事できたらよかった」、「もう一品何かほしい」であった。



(9) みかん摘み体験について

みかん摘み体験は、その理由を推測することはできなかったが「楽しくなかった」が1名いたものの概ね好評であった。

その他4名の中にも、「撰果場の見学で出荷の仕組みがよく分かった」という好意的な意見もあった。しかし、みかんを食べるのはいいが、「自分で摘んでまでは食べようと思わない」という人もいた。



<Q9:意見や感想(抜粋)>

- ・子供たちを対象にした「みかん摘み」体験(農泊等)を考えると良い。
- ・撰果場のソフト面がユニークで素晴らしかった。産業観光になり得る。
- ・楽しいだけでなく、大変であることも伝えることのできる体験ツアーが良い。
- ・みかん収穫時期にあわせる事の難しさはあるが、都合が付けば良いアイデアである。
- ・八幡浜の日の丸みかんが日本一の品質ということをもっと前面に出すべき。
- ・みかん摘みをしたことがない人にとっては魅力的である。
- ・撰果場の見学は最新の技術で市場に出荷される仕組みがわかり感動した。
- ・今回はよかったが、地元でも機会があるので何回も体験したいとは思わない。

(10) 「みかん摘み」以外で体験したいことは何か

みかん摘み以外で体験したいものとしては、釣り(船釣りを含む)と記入した人が7名、ジャコ天、蒲鉾、ちくわ作りが6名と続いた。観光だけでなく、農業、漁業全般にわたり体験してみたいという人は多い。以下、体験したいものを類型ごとに整理しておく。

<農業関連>

- ・芋掘り(2名)・田植え(1名)・稲刈り(1名)・いちご狩り(1名)
- ・たけのこ掘り(1名)・花摘み(1名)

<漁業関連>

- ・(船)釣り(7名)・地引網(3名)
- ・クルージング(海からのみかん畑、造船所見学、佐田岬周遊)(2名)
- ・牡蠣のとりいれ(1名)・干物づくり(1名)
- ・カモメの餌やり(1名)・養魚場での餌やり(1名)
- ・魚船に乗って、漁をるところの見学(1名)
- ・船から市場に魚を水揚げするところの見学(1名)

<その他>

- ・ジャコ天、蒲鉾、ちくわ作り(6名)
- ・漁業全般(新鮮な魚の見分け方、魚料理など魚に関する知識も深めたい)(1名)
- ・オレンジの入浴剤を作ってみたい(1名)
- ・自然を観賞する体験(具体的には沈む夕日の観賞)(1名)
- ・一度に複数の農産物収穫体験(みかん、いちご、いも等が一ヶ所に集まった収穫体験農園)(1名)

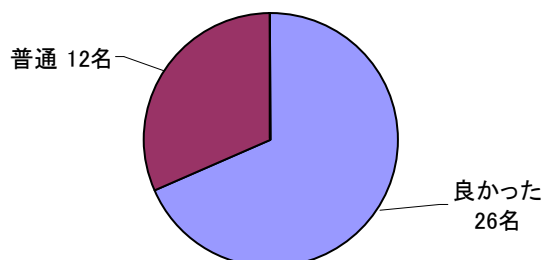
(11) どのお店で夕食を食べたか

ツアー参加者38名は、下記の5店舗に分かれて食事した。

- | | | | | | |
|-------|----|---------|----|-------|----|
| ① 大倉 | 8名 | ② 三神屋 | 8名 | ③ 浜味館 | 9名 |
| ④ 千宙里 | 6名 | ⑤ アエロスタ | 7名 | | |

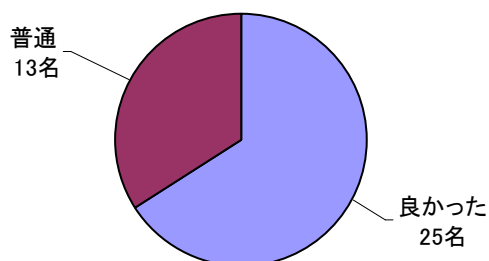
(12) 店の雰囲気について

店の雰囲気は「良かった」が26名(68.4%)で、各店舗とも「悪かった」と回答した人はいなかった。



(13) 店の対応やサービスについて

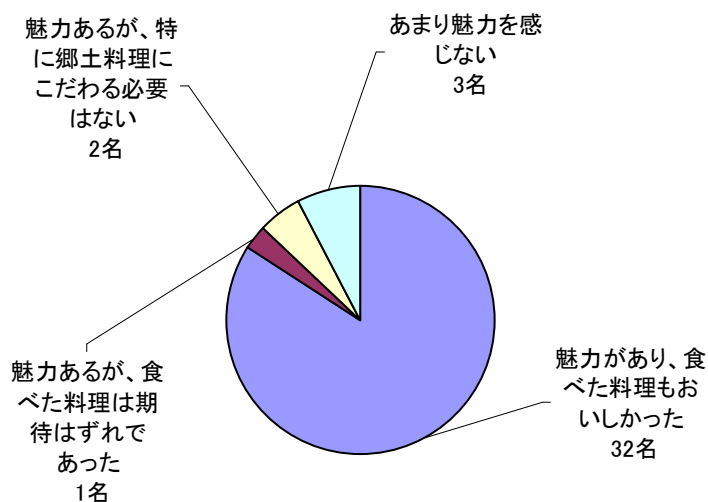
店の対応やサービスは「良かった」が25名(65.8%)で、各店舗とも「悪かった」と回答した人はいなかった。なお食事場所が異なっているため、料理の説明などについても感想が分かれている。



(14) 郷土料理の感想について

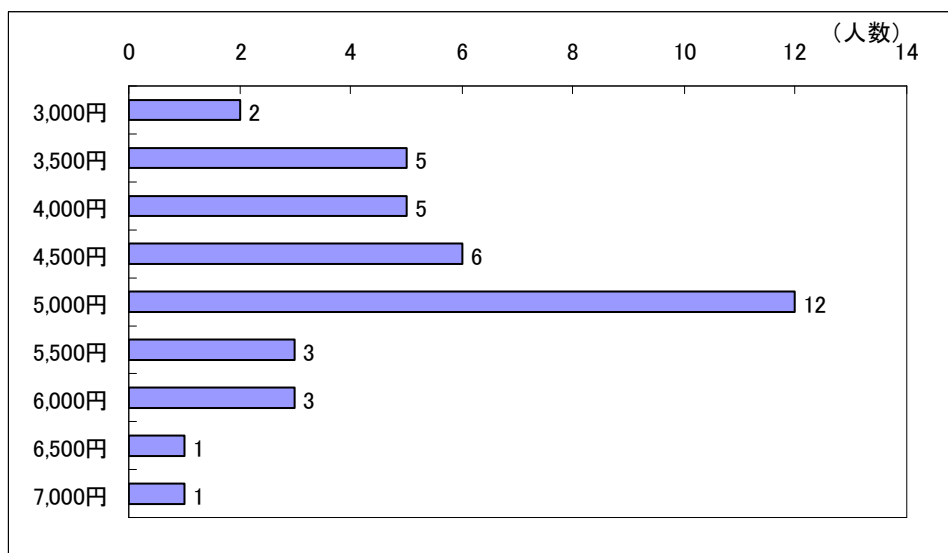
夕食で食べた八幡浜の郷土料理について、参加者のうち32名(84.2%)が「魅力がありおいしかった」と回答している。しかし、「期待はずれ」が1名、「あまり魅力を感じない」も3名いた。

なお「八幡浜の郷土料理」については、各店舗で趣向を凝らした料理を出しており、料理メニューは店により異なっている。



(15) 夕食料理代金はいくらだと思うか

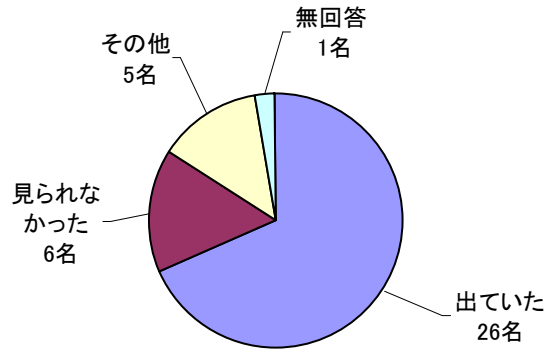
夕食は 3,500 円の料理であるが、実際に食べた料理代金を予想してもらったところ、5,000 円が 12 名 (31.6%)、4,500 円が 6 名 (15.8%) と続いている。4,000 円以上と回答した人は 33 名 (86.8%) であり、夕食は好評だったと評価できる。



(16) 郷土料理は八幡浜らしさが出ていたか。またもっと良くするためにはどうしたらよいか

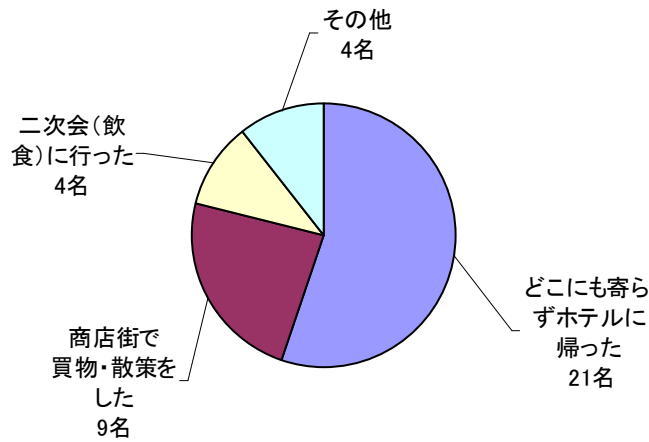
夕食の「郷土料理」には、八幡浜らしさが出ていたか質問したところ、6 名 (15.8%) は「八幡浜らしさは見られなかった」との回答であった。鯛めし以外

は、郷土料理という感じは受けなかったという意見もあるが、この質問では、食事した店舗間格差が大きく出ているため一律に評価することは難しい。



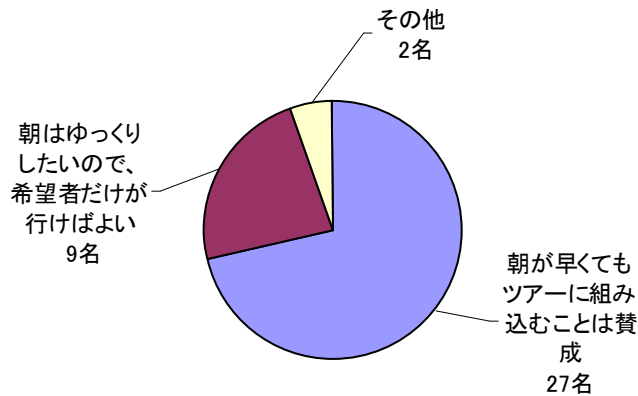
(17) 夕食後はどこかに出かけたか

夕食後は「ホテルに帰った」が21名(55.3%)、「買物や散策をした」が9名(23.7%)、「二次会に行った」は4名(10.5%)であった。その他は、コンビニに寄ったなどである。



(18) 魚市場の見学をツアーに組み込むことについて

魚市場のセリ見学は早朝となるが「ツアーの行程に組み込むことに賛成」が27名(71.1%)であった。しかし「希望者だけでよい」という回答も9名(23.7%)いた。



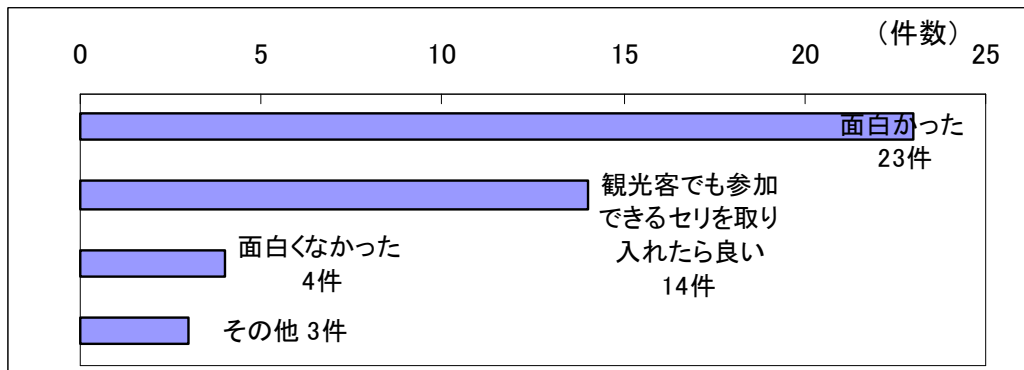
<Q18:意見や感想（抜粋）>

- ・セリはめったに見られないので、是非組み入れてこれを目玉とすれば良い。
- ・開催頻度を月2回にしたらどうか。「月2回にすると毎回の客足が半分になる」と懸念する向きもあるが、知名度が高まりかえって客が増えるかもしれない。2~3ヵ月程度試行してみてはどうか。
- ・八幡浜にとってはフェリーがお客を運んで来る絶好の交通になるので、フェリー乗り場を拠点にして、その周辺に魚市場やジャコ天等の観光土産売場、食事のできる所(新鮮な魚料理等)など大きく拡げていけば、今後とても良くなる。
- ・ただ魚を見るだけに終わってしまうと意味がない。もしツアーに組み込むなら、積極的に見て何か体験できるよう改善が必要。
- ・自分で体験できないので、わざわざ6時に起きて行く価値はない。
- ・朝はゆっくりして、町並み散策をする方がよい。
- ・セリは見学だけでなく、何らかの形で参加・体験できる企画があればよい。

(19) 魚市場「セリ」の見学について（複数回答）

セリ見学の感想は「面白かった」が23件、「観光客が参加できるセリがあれば良い」が14件であった。しかし「面白くなかった」も4件あった。

面白くなかった理由は、「観光客として職場の中まで入り込むのには、抵抗がある。また靴底の汚れ等あり、衛生面で問題がある」、「セリの見学だけでは魅力がないと思うし、参加も難しそうに感じた」、「セリの仕組みがわからなかった」である。

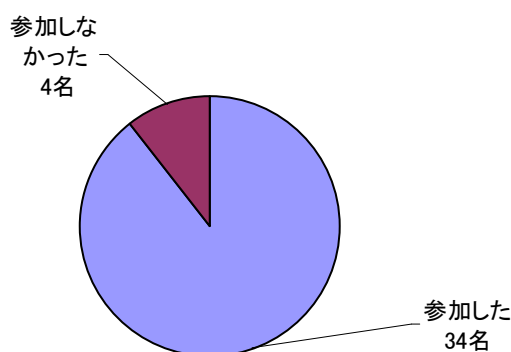


<Q19:意見や感想（抜粋）>

- ・見世物でない真剣勝負であり、大変面白かった。
- ・ただ見るだけでは消化不良感が残る。見学料金を徴収するなり、魚を売る方法を組み合わせるなりして経費を回収するとともに、何らかの見学者向け解説が必要。
- ・セリの落とし方の説明、仲買人の指の使い方等の説明があればもっとよかった。
- ・セリツアーも面白いと思う。大体のセリ値や手数料をメニュー化しておき、代理の人にセリ落としてもらってクール宅急便で自宅、知人に送付するシステムがほしい。
- ・セリの仕組み等の話をして、実際体験できるとすごく良いと思う。観光客でも参加できるセリがあれば、売りにできるのではないか。
- ・遊びではないので、観光客は参加しないほうがよい。
- ・商人が真剣に仕事をしている姿を見るだけでもよかった。観光客がセリに参加する事はやりすぎ。神聖な仕事を荒らすことは許されない。

(20) 八幡浜の町並み散策に参加したか

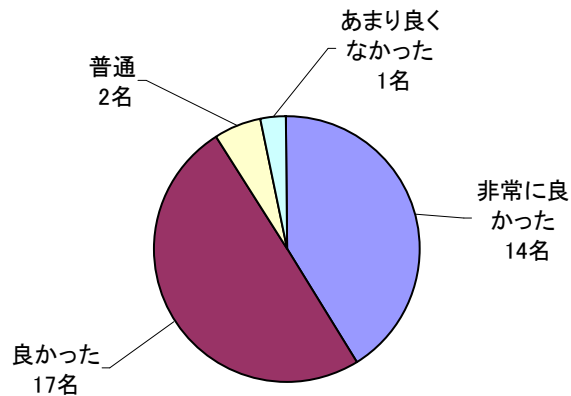
八幡浜の町並み散策はオプション企画であったが、参加しなかった4名は前日体験できなかった「みかん摘み」を行った。残りの34名は全員が町並み散策に参加した。



(21) 八幡浜の町並み散策の感想について

町並み散策の感想は「非常に良かった」が14名（41.2%）、「良かった」が17名（50.0%）と9割以上の方が好印象を持っている。なお「あまり良くなかった」は1名であった。

八幡浜の町並み散策は、グループごとにガイドをつけていたため、説明内容もよく理解できたと好評であった。また説明を受けたことで八幡浜の良さを再認識したという回答もあったが、保内町と同様に建物の保存や利用に課題があるとの意見が多い。



<Q21: 意見や感想 (抜粋) >

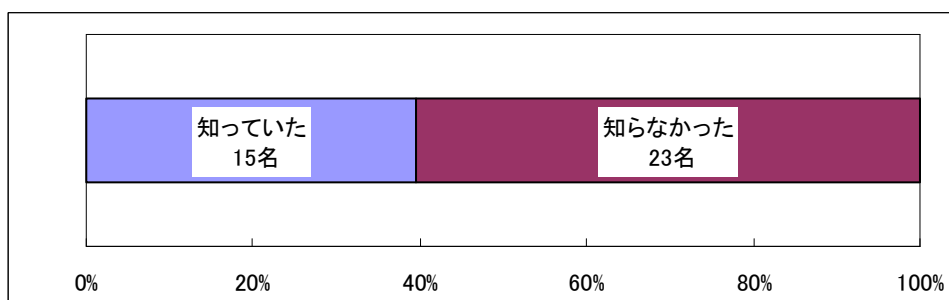
- ・外から見るだけでなく、染物屋のように中に入れるところがもう1~2ヶ所ほしい。
- ・歴史ある建物のほとんどが廃墟同然になっているのが残念。保存の方策が必要。
- ・若松屋に行き、店の方から丁寧な説明を受けた。昔ながらの仕事を現在も職人として頑張っているのが、町並みの1つとして大きく貢献していると思った。
- ・八幡浜は今までは四国観光の通過点でしかなかったが、歴史のある町並みを見て八幡浜の良さを再認識した。
- ・ガイドパンフレットに各施設の名称のみが記されたものが多かったが、施設ごとに時代説明やポイントの記入があればもっと良い。散策する施設が各々別々の施設として説明されていたが、ストーリー性を持って時代が同じもの等を一つの歴史背景の中で説明（散策）できればもっと各施設のよさが伝わってくる。旧下司医院、旧酒蔵、西村家蔵等すばらしい施設が残っているので、もっと有効に活用したらいい。

(22) 八幡浜の町並み散策に参加しなかった人はどう過ごしたか

町並み散策に参加しなかった4名は、前日体験できなかった「みかん摘み」を行った。

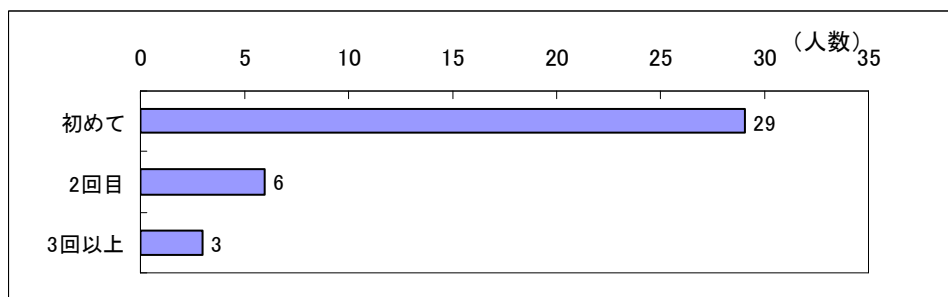
(23) 海鮮朝市を知っていたか

海鮮朝市をツアーに参加するまで「知らなかった」人は23名(60.5%)であった。



(24) 海鮮朝市に来たことがあるか

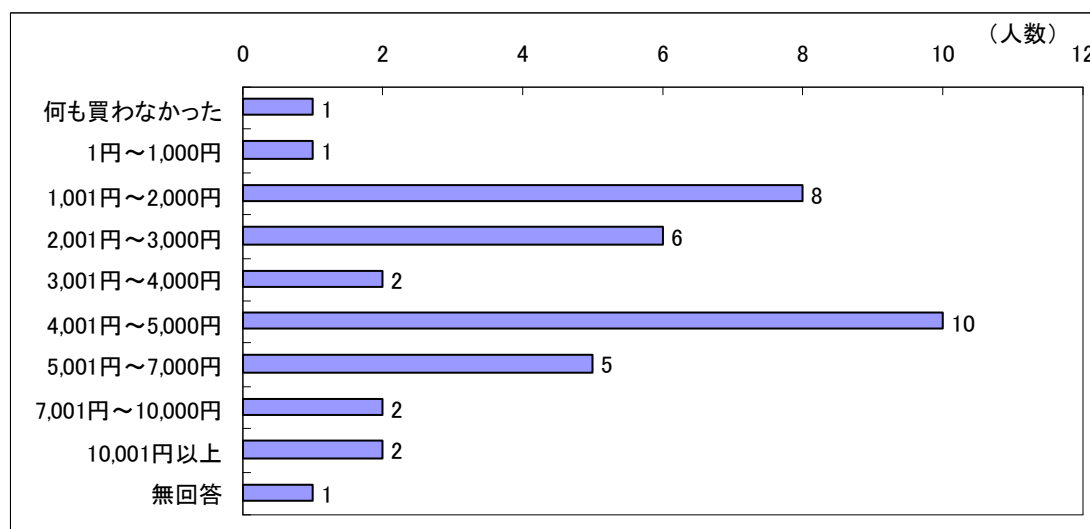
海鮮朝市に来たのは今回「初めて」と回答した人は29名(76.3%)、2回目は6名(15.8%)、3回目以上は3名(7.9%)であった。



(25) 朝市会場で買い物した金額について

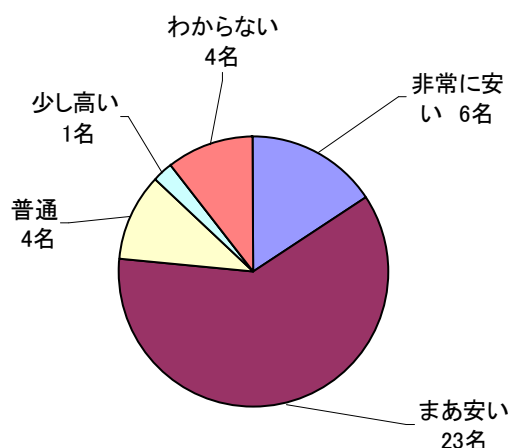
朝市会場での買い物金額では「4,001円～5,000円」の買物をした人が10名(26.3%)、「1,001円～2,000円」が8名(21.1%)と続いている。しかし10,000円を超える買物をした人も2名(5.3%)いた。

なお「何も買わなかった」と回答している人が1名いるが、同伴家族は買物をしている。



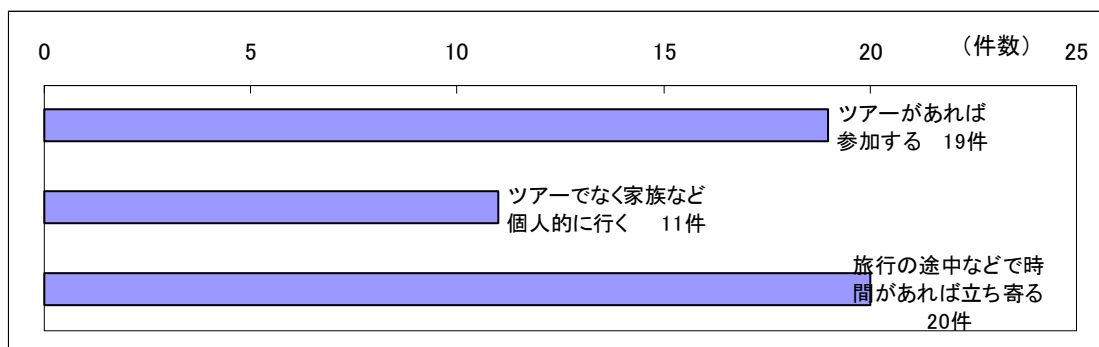
(26) 朝市会場で売っている魚の料金について

朝市会場での魚の値段については「非常に安い」が6名（15.8%）「まあ安い」が23名（60.5%）となっており、約8割の人が「安い」と感じている。なお「少し高い」と感じた人は1名（2.6%）であった。



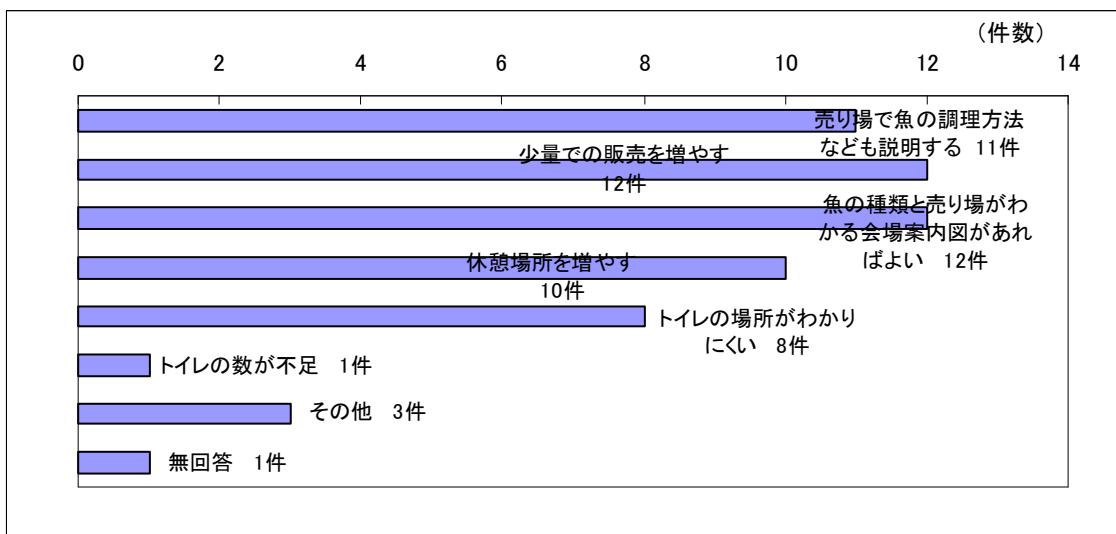
(27) 海鮮朝市にまた行こうと思うか（複数回答）

海鮮朝市に再度行くかとの質問に対して「もう行きたくない」と回答した人はいなかった。



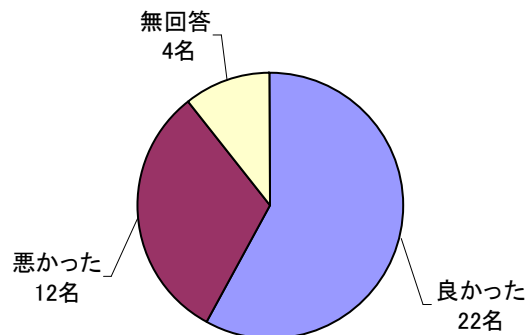
(28) 海鮮朝市をもっと魅力的にするためにはどうしたらよいか（複数回答）

海鮮朝市をもっと魅力的にするための改善策について質問したところ、魚の種類と売り場が分かる会場案内図の設置、売り場での調理方法の説明、少量での魚の販売を増やすといったことが改善点としてあがった。



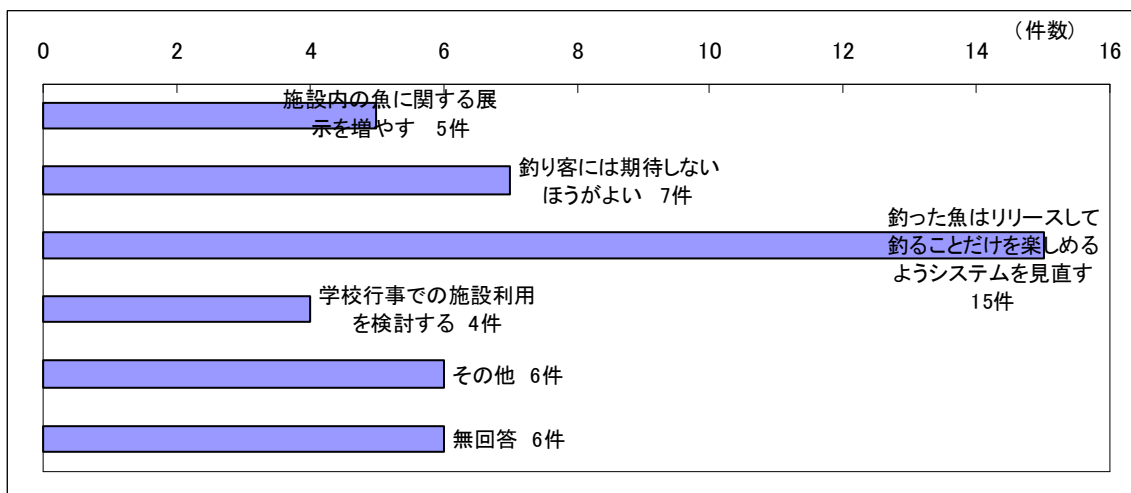
(29) お魚牧場「シーロード八幡浜」の印象について

お魚牧場「シーロード八幡浜」の印象は「良かった」が22名(57.9%)、「悪かった」が12名(31.6%)であった。悪かった理由としては、食堂が殺風景、楽しみにしていたバーベキューが出来なかった、見るものがないなどがあげられている。



(30) お魚牧場「シーロード八幡浜」の施設活用について(複数回答)

お魚牧場「シーロード八幡浜」の施設活用方法について質問したところ、「釣りを楽しめるようシステムを見直す必要がある」という意見が15件と一番多かった。

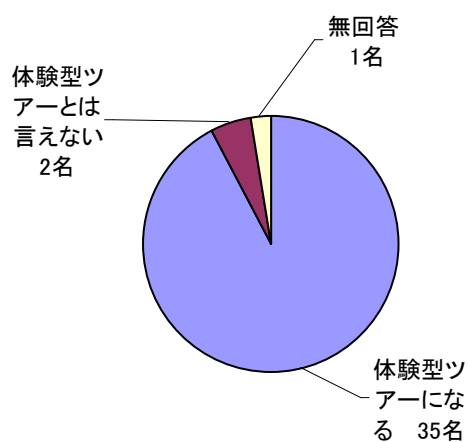


<Q30:意見や感想(抜粋)>

- あれほど簡単に釣れて、釣った魚は全て買取となるとちょっと怖くてできない。正に「釣れた魚はお買い上げというシステムを見直す必要がある」と思う。
- 有料の魚は高価だし、イケスの外で釣るくらいなら他に天然の釣り場がいくらでもある。見るだけでは面白くはないし、釣りの値段も高いことを考えると投資に見合う魅力は見出せない。
- 釣り体験は時間が掛かるので、釣り体験ツアーは魚好きな人のために、海鮮朝市とは別に考えた方がよい。

(31) ツアー全体について

今回のツアーについて「体験型ツアー」と言えるか質問したところ、35名(92.1%)が「体験型ツアーである」と回答した。体験型ツアーとは言えないと回答した人の中には、「海の幸の素晴らしさを体験できる企画がなかった」という意見があった。

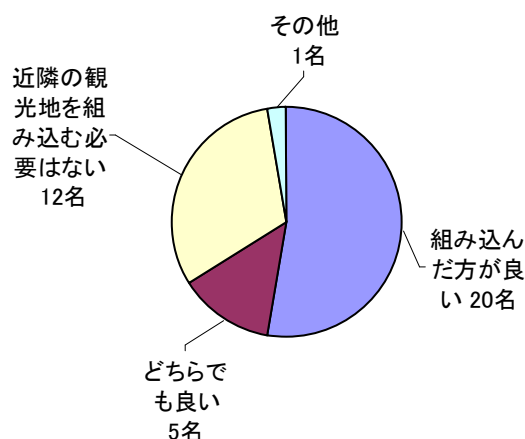


<Q31:意見や感想（抜粋）>

- 図書館の二宮忠八コーナーも視察したかった。
- 将来は年齢階層別、グループ、家族、学生等の属性別に選べる多様な体験コースが組めるといい。
- 県内小中学生の社会科での、みかん摘み体験も検討したらよい。
- 都会の人々を対象にしたら良い。また農家に宿泊できたら最高である。
- 今回位のツアーであれば10,000円～15,000円で計画されても参加者はたくさんいると思う。昼食は実費でもいけるのでは。
- 2日目は見学が多かったのもっと体験型のものを取り入れてほしい。
- 町並み散策、みかん摘み、魚市場セリ見学、海鮮朝市、おさかな牧場、十分体験型ツアーだと思うが、少し忙しかったのもう少しゆっくりしたかった。
- 「何かを作る」という体験がしたかった。ジャコ天、太刀魚巻作りなどあったら面白い。
- 八幡浜のイメージはみかんと海の幸だと思う。みかんは全国ブランドであり、それを出荷する大規模施設を有しているという事をよく理解した上で（撰果場視察）、みかん摘み体験ができたので、八幡浜のみかんの良さがよくわかったが、海の幸の素晴らしさを体験できる企画がなかった。

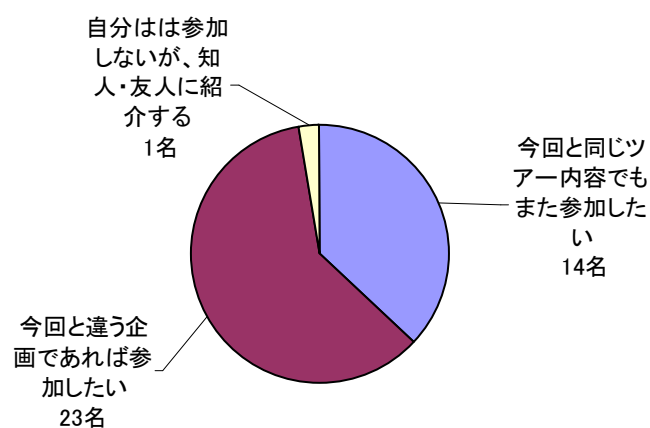
(32) 近隣の観光スポットをツアーに組み込むことについて

ツアー行程に八幡浜市近隣の観光地訪問を組み込むことについて「組み込んだほうが良い」が20名（52.6%）、「組み込む必要はない」は12名（31.6%）であった。賛成意見としては、大洲や内子にも行ってみたい、八幡浜市には名所旧跡が少ない、近隣観光地をセットした方が客を呼べるなどである。反対意見としては、八幡浜市にはまだ発掘されていない歴史や文化が残っているはず、八幡浜市を売り込むためには、他の観光スポットを組み込む必要はないなどである。



(33) 今回のようなツアーがあれば参加するか

今回のようなツアーに参加するか質問したところ「今回と違う企画であれば参加したい」が23名(60.5%)であったが、「今回と同じ内容でも参加したい」も14名(36.8%)いた。ツアーでのメニューに変化がなければ、リピーターの参加者は減少してくるので、メニューの変更を考えていく必要がある。

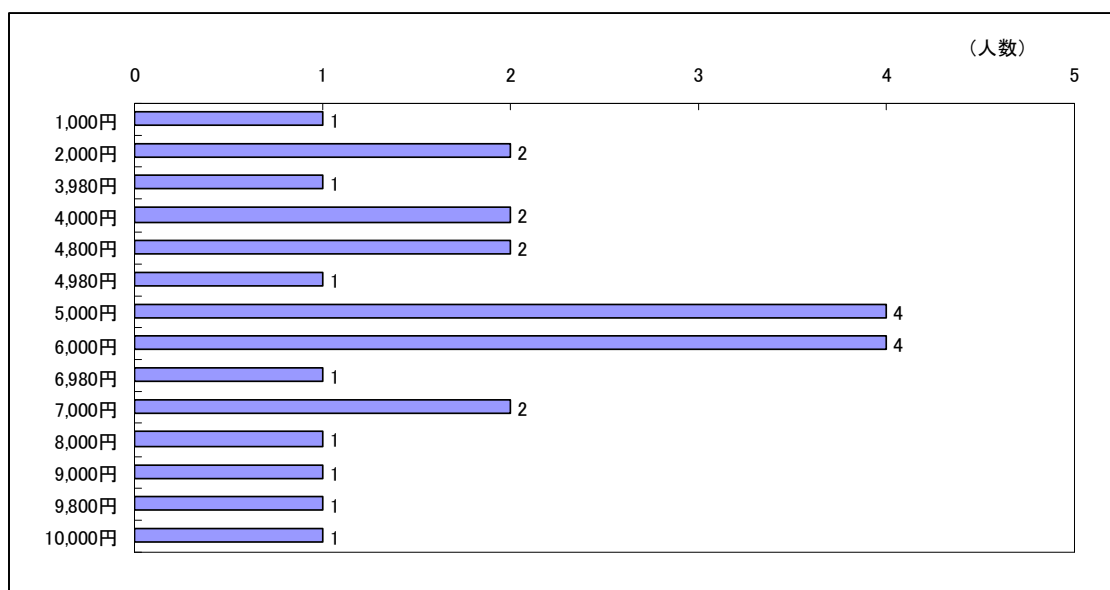


(34) 適正だと思うツアー料金はいくらか

臼杵から八幡浜へのツアーに参加する場合の日程と金額について質問した。なお本問での選択肢は「1つ」としていたが、多くの人が複数回答をしているため、記入された内容を集計した。

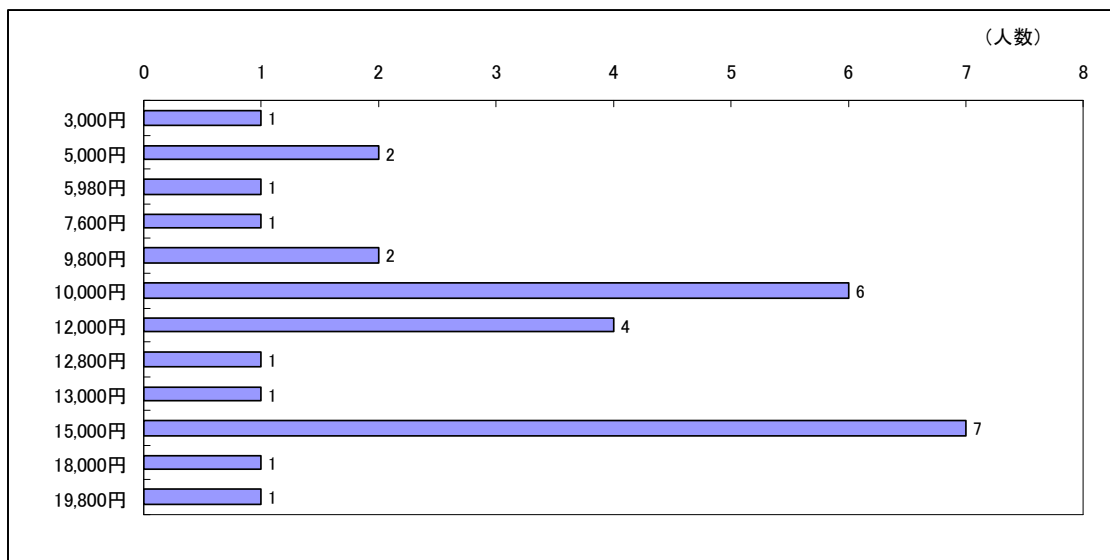
①日帰りツアー（海鮮朝市と八幡浜市内見学）

日帰りツアーには合計24名の記入があった。金額は1,000円から10,000円まで記入されている。中でも5,000円および6,000円がそれぞれ4名となっている。



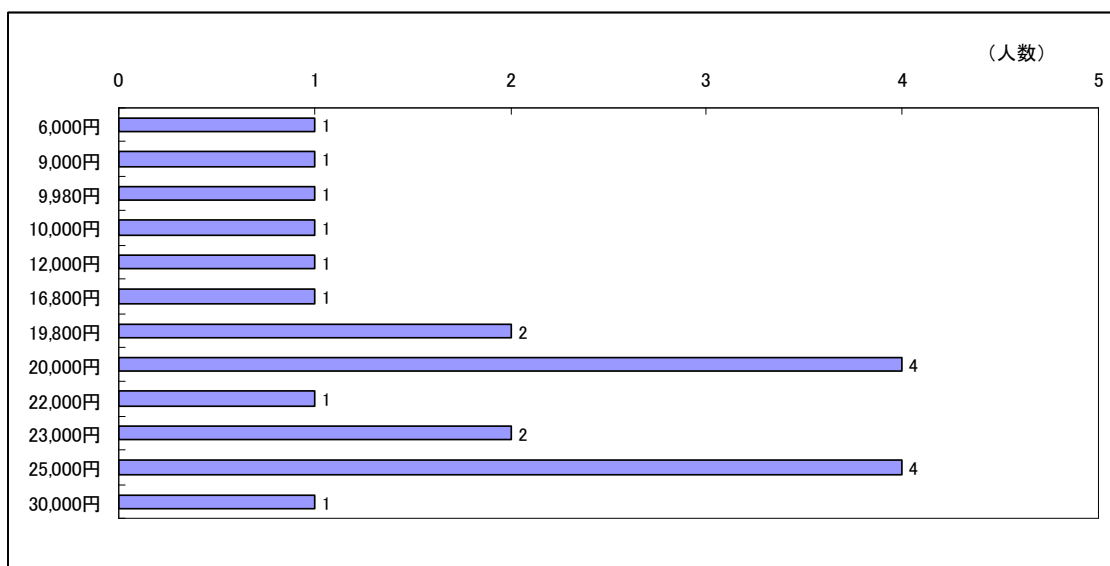
②1 泊2日（宿泊は八幡浜市内）

1泊2日ツアーには合計28名の記入があった。金額は3,000円から19,800円まで記入されている。金額では15,000円が7名、10,000円が6名となっている。



③2 泊3日（うち1泊は八幡浜市内）

2泊3日ツアーには合計20名の記入があった。金額は6,000円から30,000円まで記入されている。中でも20,000円および25,000円がそれぞれ4名となっている。



④その他

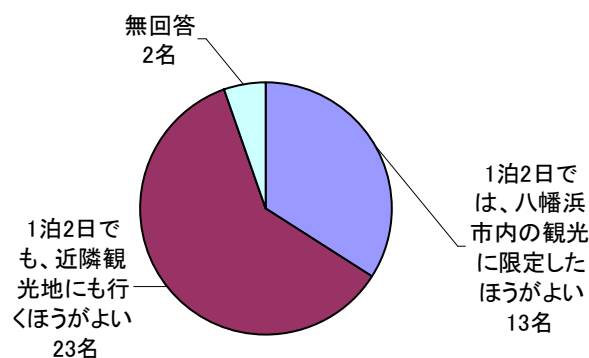
その他の記入は1名であった。金額は19,800円、意見欄には、「昼食に八幡浜で海鮮焼を食べ、温泉のある所に泊まる。又は、早めに海鮮焼きなどの夕食をとって、温泉のある所に泊まる。宿泊場所は大浴場のあるコストを抑えたビジネスホテルでもよい」と記入されている。

<Q34: 意見や感想（抜粋）>

- ・最近格安ツアーも多いので、あまり高い価格では魅力に欠けるかもしれない。
- ・駆け足であるもこれも見て回るよりも、じっくり2ヶ所程を見たい。
- ・日程はいろいろなものを組み合わせると難しい。どこに主力をおいてツアーを組むのか、どこをアピールするのか、により日程が決まるのではないか。
- ・1泊は温泉地で宿泊をしたい。
- ・九州なら臼杵から長崎日帰りでも4,980円くらい。福岡からだとう杵まで2,980円とか3,980円くらいであるけれど、フェリー利用は料金面ではネックである。
- ・例えば1泊2日のツアーで1日目に八幡浜巡りをし、2日目は道後温泉か松山城を見て（どこか1ヶ所でよい）、帰りは八幡浜港よりお土産を買って帰る。まずお客様に来て頂くことから始まる。
- ・「交通費5,000円、宿泊費4,500円、食事代3,000円、昼食代別（海鮮市場バーベキュー）、みかん狩り、入園無料で摘み取ったみかんは有料」のツアー。

(35) 1泊2日のツアーでも近隣観光地まで組み込んだ方が魅力的か

ツアー日程が短いと訪問先は限定されてくるが、それでも近隣観光地にも行ってみたいか質問した。1泊2日の日程でも23名（60.5%）が近隣観光地にも行きたいと回答している。実際にイメージしている場所としては、温泉のある所（松山）や大洲、卯之町の町並みなどであるが、八幡浜市内の観光でよいと回答した人も13名（34.2%）いた。



<Q35: 意見や感想（抜粋）>

①1泊2日でも近隣観光地に行きたいと回答した人

- ・八幡浜には温泉がないので、近隣もセットにした方が観光客は増える。
- ・道後温泉（温泉のある所）に泊まって、お城を見て、翌日、八幡浜の市内散策や朝市、又はみかん狩りなどの体験ツアーをする。
- ・八幡浜かどこか近隣にあれば良いのだが、ツアーの中に温泉はどうしてもほしい。
- ・保内、八幡浜のまち歩きは割愛し、卯之町のまち歩きにした方が、他所の人にはウケルのではないか。
- ・大洲市、内子町等近隣の観光地をセットすることで、八幡浜の良さを知ってもらう。

②1泊2日では八幡浜市内に限定すべきと回答した人

- ・1泊2日10,000円コースの設定。例えば、みかんと町並み散策、新鮮朝市、ジャコ天工場又は撰果場を見学。11:00集合、翌日14:00解散。
- ・ティータイムや自由行動時間を設けて八幡浜市内でゆっくりするツアーが良い。
- ・八幡浜市の今後売り出したい特産品及び名所旧跡を中心に組み込んだ方が良い。
- ・市内限定でも楽しめると思う。特に女性や年配の方は、移動時間分をコーヒー休憩などに使った方が良いと思う。
- ・種類(コース)を少なくして、1コースをじっくり体験できる行程が良い。

(36) 愛媛県内で訪問したい観光地はどこか

愛媛県内で訪問したい観光地や施設等について質問した。回答のあった観光地等は次の通りである。これを見ると、今回のツアー客が行ってみたいと思う地域は「松山市」が多かったが、観光スポットとしては「内子の町並み」に一番興味を持っている。

- ・内子の町並み(13名)・道後温泉(12名)・大洲の町並み(4名)
- ・松山市内観光(4名)・松山城(3名)・子規記念博物館(3名)・宇和(卯之町)(3名)
- ・宇和島(3名)・しまなみ海道(3名)・砥部焼(2名)
- ・ちんちん電車(坊っちゃん列車に乗る)(1名)
- ・大江健三郎の生地、臥龍山荘、南西海岸、愛南町(西海)、高茂岬、八幡浜、面河溪谷、岩屋寺、おさかな館、森の国ホテル、佐田岬、伊方原発、まつり見学、節句人形や桜の名所見学、(各1名)

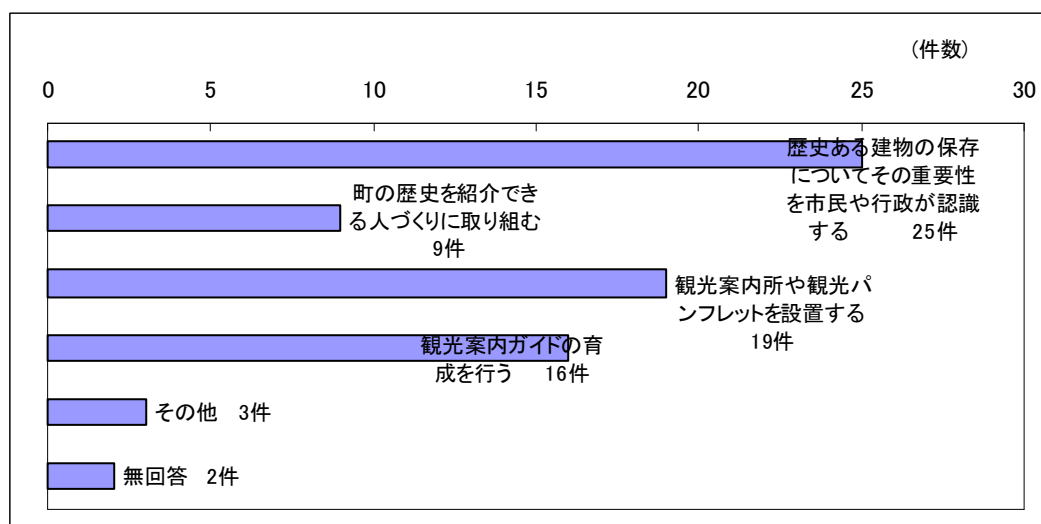
(37) 八幡浜市を人が集まる魅力的な町にするためにどうしたらよいか

八幡浜市は、自分の住んでいる町と比べて何が不足しているのか、また魅力ある町にするための方策について質問した。八幡浜市には古い歴史があり、自然も豊かで観光資源はたくさんあるが、町並みや歴史ある建物を観光資源として利用していくためには、建物の保存にも目を向けていく、町並みの案内板を設置する、漁業とみかんをもっと積極的に観光資源として活用していくといった意見が多かった。市民と行政が一体となった取り組みが求められているといえる。

- ・特に保内の歴史、及び建物について対外広報姿勢が欠如していたのではないか。
- ・伝統的建造物をまばらに残すのではなく、改修には補助金を出してでも観光用に路地毎に集約するとよい。また伊予石をさらに売り込むべきである。
- ・全体的に統一感がない。誰でも目につく標識等の設置も重要である。また洋式トイレ、道路標示(町並みの案内板)、駐車場の整備が必要。
- ・旧家ばかりだったが住んでない家は、家の中を見せたり展示館等も造るとよい。
- ・施設の修復、保存に力をいれるべき。また、昔の酒蔵等の有効活用が必要だと思う。
- ・歴史的町並みを売りにしようとするのであれば、時代背景、各施設のストーリーをきちんと把握する必要がある。
- ・若者が住んでいない様な雰囲気。魅力的な店、建造物等数多くあるのに活用されていない。早く手を入れないと姿を消してしまいそうな建物が多い。

(38) 滞在型まちづくりに取り組むための具体的方策はあるか（複数回答）

滞在型まちづくりに取り組む方策について質問したところ「歴史ある建物を保存についてその重要性を市民や行政が認識する必要がある」、「観光案内所や観光パンフレットの設置をする」という意見が多かった。

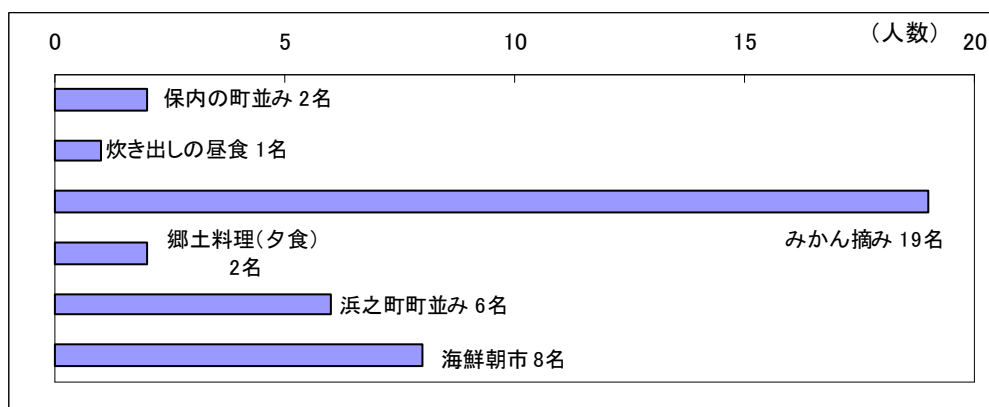


<Q38:意見や感想（抜粋）>

- ・現在の八幡浜はとにかくバラバラのように見える。市民の一人一人がまちを美しくすることを実行しなければならない。
- ・グリーンツーリズムを取り入れ、体験内容を増やした方が良い。
- ・できれば深層水でもいいから温泉を掘り、大浴場を作る。
- ・観光で生き抜くためには、もっと町自体をきれいにするのが重要。道路や川、海についても同じである。
- ・どの客層に来てもらいたいターゲットの絞込みが必要。八幡浜の観光戦略を立てるとともに、魅力を洗い出してキャッチフレーズを作る。
- ・物を壊していくのは早いですが、作るのは大変である。折角の資源（古いもの）埋没させる事のない様、国や県や市に働きかけをしていく。
- ・これから先の八幡浜をどうするのかビジョンをはっきりと示してそれに向けた努力をすることだと思う。体験型ツアー、海鮮朝市等のマスコミを使った宣伝をする。
- ・観光客に八幡浜を売り込むためには、ボランティアガイドの養成が必要である。
- ・こだわりをもってアピールすることが大事である。自己満足で終わらない。
- ・市民の意識づくりに取り組む。市民に長期的な展望と計画を説明し、町並条例等設けるなど、補助金の問題も含めて市民の理解と協力を得ることが必要。また市長や議員にも町並を見学してもらい、その重要性を理解してもらう必要がある。

(39) 今回のツアーメニューで一番良かったものは何か

今回のツアーで一番良かったメニューを選択してもらったところ、参加者の半数にあたる19名が「みかん摘み」と回答している。これに「海鮮朝市」が続いている。体験型観光の目玉商品として企画した「みかん摘み」は大変好評だったことがわかる。



(40) 今回のツアーにおける改善点や感想などについて

今回のツアー全般に関して記入された意見や感想を見ると、町の活性化のためには早く建物保存(整備)をする必要があること、また建物を見せるだけではなく有効利用も考えていくことが重要で、そのためには市民と行政が連携して取り組んで行くことが不可欠であるという意見が多くみられる。さらに、旧八幡浜市と旧保内町はお互いの良さを認め合って、町の活性化に取り組んでいくことが大切であるという意見もある。

また、ツアーでは、幅広い全ての年代が満足できるメニューを設定することは出来ないので、ターゲットとする年代を絞り込んでいく必要もある。八幡浜市には観光資源として活用できる豊かな自然も多く残っているので、想定するターゲットに合わせた組み合わせを考えることが大切である。

<観光資源>

- ・町並散策や魚市場と朝市はどちらか一つずつでお魚牧場を見る。
- ・夕食は魚をメイン料理にするなら、昼食は郷土料理だけにした方が楽しい。
- ・魚市場セリ見学は朝早く起きて見るだけなので、他のものを組み入れた方がよい。
- ・2日目は、町並み散策以外は買い物が主になったので、内容を変えた方がよい。
- ・無いものねだりを承知で言えば、温泉が是非ほしい。

<町並み>

- ・保内のまち歩きについては、ガイド案内されて回るのではなく、時間内に案内マップを持って自由に回る形の方が良い。(ガイドは各ポイントに常駐してそのポイントに来た客に説明する)
- ・二宮忠八翁に関する情報、資料、遺品に触れる機会が少なかった。コースを追加すべきではないか。(市、観光協会の封筒には“翁、生誕の地”と大書きしてある。その割には、翁ゆかりの土地、モノ、作品の紹介が乏しかった)
- ・町並を散策する際、記念になるものを(今回は「風呂敷」のみ)手に入れたい。そういう場所がもう少しあってもよいと思う。
- ・時間に追われすぎて、もう少し余裕がほしかった。昨年に比べると今回は町全体がとてもきれいになったと思う。暗い感じだった町がなんとなく明るくなっている。行政が頑張っているが、民間(市民)が参加していない。八幡浜の町で古い建物が手つかずになっている所があるのはもったいない。

- ・もう少し参加者に考えさせ工夫させる要素があってもよかったのでは。
- ・もっと町並みを保存したら、立ち寄る人も増えると思う。みかんも魚も美味しいので「食」のイメージを作り、町並みも手を入れて保存すれば観光客も来る。
- ・蚕種事務所では、実際に繭を目にすることができたのはよかったが、糸ができるまでの過程の写真なり、説明書きの展示がほしい。ただ建物を見るだけより、内容があるような気がした。
- ・もっきんロードという名なら木琴の様にたたいたら音がでるか試したかった。
- ・町並み保存（空家）対策には多大な費用と期間を要するだろう。未来を背負う子供たちの意見を聞き、子供たちと共に考え、行動する事が良いかも。
- ・他市に比べて町並みの魅力が少し弱いと感じた。日本一の日の丸みかんをテーマとして体験農業に力を入れていけば、ツアーとして確立されてくる。
- ・昨年に比べこの一年間の町の変わりように感動したが、コーヒーやお茶が飲めるおしゃれな場所がない（蔵や古い民家等を利用すれば素敵な町になると思う）。
- ・まだ観光地化する前の初々しさを忘れないでほしい。豊後高田市の「昭和の町」よりすばらしいと思う。
- ・行政と市民との距離がまだまだあるように感じた。時間がかかるとは思うが、漁師の町八幡浜と文化の町保内町との一体化が必要で、お互いの町の良さを認めあって高めていく姿勢で町づくりをやっていかないと町の活性化はなかなか出来ないと思う。
- ・町並、散策を行ったが、市民がどの様な取り組みをしているか、又、町全体の姿が見えにくかった。

<ツアー全般>

- ・臼杵フェリー乗り場や人の集まる所に、海鮮市場の案内や具体的な町並散策等のポスターや、資料を展示してみてもどうか。
- ・年配者向けのツアーを予想していたが、思っていたより随分楽しかった。
- ・対岸の両市にとって、フェリー客をターゲットとする観光は重要である。整備された高速道によって、八幡浜から四国内各地、また阪神地域への車による移動が便利になった事が、九州では未だそれ程知られていない。これは四国全体の観光関係者がもっと九州人にPR努力すべきで、その点、玄関口になる八幡浜が四国各地に向け、九州向け観光PRの音頭をとるべきではないか。
- ・もっといろんなプランを作って、いろんな所から参加できるように宣伝したら良いと思う。日帰りでも1泊2日でも良いが、年齢別にプランを分けて、年齢にあった場所や行事を組むなど設定をしてみてもどうか。

<その他>

- ・新しい魚料理をもっと研究して、美味しい魚料理の店ができればフェリーを使ってでも食べに来る人は多いと思う。
- ・フェリー乗り場は八幡浜の顔であるから観光につながる場所として大変革をしてほしい。現状はなんとなく薄暗いイメージがあり、印象が良くない。
- ・八幡浜といえばジャコ天だけしか思いつかない現状をどう打破するか、これに尽きると思う。これには魚市場、海鮮朝市をどう組み込むか、それをどうして一般の人々に浸透させるか、それには今回のような体験ツアーが良いと思う。
- ・ツアーは今回初めてだったが大変よかった。八幡浜だけにある資源で立派な商品を作り出してもらいたい。

Ⅲ アンケート集計結果からみたモニターツアーの評価

アンケート結果から総評すると、今回の「体験型ツアー」は大変好評であったといえる。なお年代層別の集計については、参加者の年齢に偏りがあるため特には行っていないが、アンケート結果を通して、課題を整理すると以下ようになる。

(1) みかん摘みについて

今回のツアーの目玉の1つとして企画したみかん摘みは、ほとんどの人がもう一度体験したいと回答している。この理由としては、天候に恵まれたこともあるが、みかん摘みは初めて体験する人が多かったこと、また日の丸みかんという最高のブランドを提供したことが大きな要素となっている。

みかん摘みについては、参加者の意見にもあるが、何度も体験すると面白さがなくなってくるであろう。しかし、都市部を中心に経験のない人にとっては、魅力的な農業体験として映ると思う。

今後みかん摘みを企画する場合も、日の丸みかんの園地協力が不可欠であり、摘み取ったみかんが、一般に販売されているみかんとあまり変わらなければ、八幡浜のみかん全体の評価を下げてしまうので注意する必要がある。

(2) 魚市場セリ見学と海鮮朝市について

魚市場のセリ見学については、初めて見学した人がほとんどで「面白かったのでツアーに組み込むことに賛成である」という人が多かったが、「早朝であるため自由参加にすべきである」との意見もある。賛成と回答した人の中にも「セリの見学だけでなく実際に体験したい」という意見もあった。ツアー客のセリ見学については、観光客だけでなく魚市場関係者の意見も参考にしながら、お互いにメリットのある仕組みづくりを検討していく必要がある。

海鮮朝市については、今回2回目以上のリピーター客は9名であり、多くの人は初めての参加であった。改善点などの意見も多数あるが「また来たい」という感想が多かった。販売されている魚の値段も、「少し高い」と記入している人が1名いるが、この人の買い物金額は10,001円以上と記入されている。金額面では「安い」と感じている人が多数である。今後の課題としては、今回のアンケートでの意見を受け止め、改善できるものから取り組んでいく必要がある。

(3) 近隣観光地の組み込みについて

ツアーの行程に近隣観光地を組み込むことについては、意見が分かれている。せっかくの機会であり近隣の観光地にも行きたいという意見と、八幡浜市にもまだ埋もれた資源があるので八幡浜市に限定した方が良いという意見である。

参加する客層や日程にもよるが、もう一度八幡浜市の観光資源を洗い出すことが先決であり、その中でツアー日程にあった観光地をどの様に組み合わせるのかを考えていく必要がある。

しかし、近隣の観光地を組み込むことで八幡浜市より他の観光地にスポットが当たることは出来るだけ避けたいが、「温泉に入りたい」という希望者が多いことも事実である。近隣の観光地や温泉をどの様に組み込んでいくのか、或いは当面は八幡浜市内での「体験型観光」に特化して取り組んでいくのかということについても、考えていかなければならない。

(4) 食事について

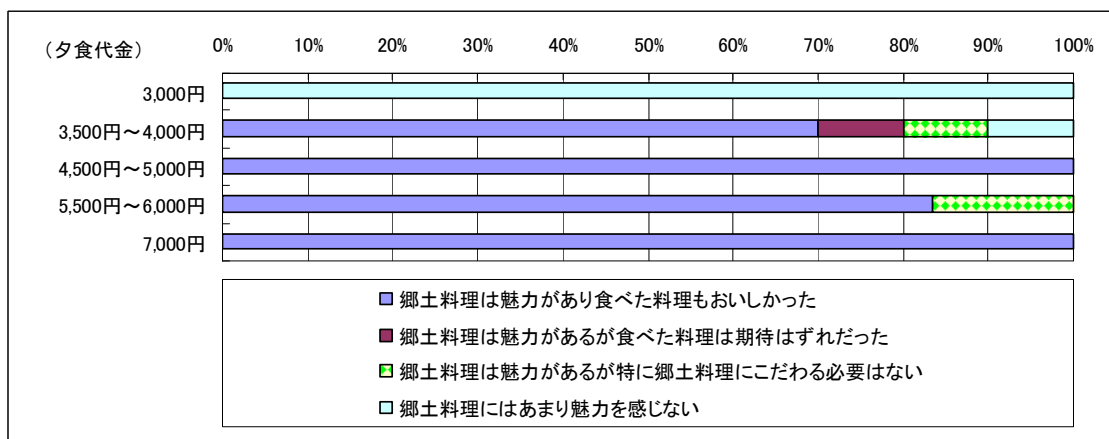
「炊き出し」での昼食は、概ね好評であったが評価は年齢が下がるほど辛い意見になってくる傾向がある。今回のような炊き出しでは準備が大変だが、炊き出しの体験は可能であれば取り入れると、ツアー客の印象に残ることは間違いない。

夕食については、ツアー客一同が集まるということは難しいかもしれないが、今回の意見では、食事した店舗によってかなり満足度が異なっていた。Q15では夕食代金を予想してもらった。当然ではあるが、高い金額を記入した人のほうが、夕食の満足度は高い(図1)。もちろん食べた料理も違うが、参加者の満足度には大きな乖離が見られたので、この点は今後の課題である。

また「八幡浜の郷土料理」について説明していないので、それぞれの参加者によってイメージが異なっていることも乖離の要因と思われる。食事の際に、郷土料理の説明を加えることも、評価を上げるには大切である。

店の対応面としては、料理の見せ方についても工夫し、利用者へのよりよいサービスの提供を忘れてはならない。

(図1) 予想した夕食代金と郷土料理の満足度



(5) 町並みについて

保内および八幡浜の町並み散策は、どちらも好評であった。町並みの歴史や価値を知ってもらうためには、今回のようにボランティアガイドによる案内や説明はなくてはならない。今後ボランティアガイドの役割はますます重要になってくるが、その「人づくり」が大きなテーマである。

また、地域活性化のためにも現在数多く残っている観光スポットを、「点」から「線」へ、さらに「面」へと展開させなければならない。そのためには、古い町並みの保存に努めるとともに、建物の有効利用について、地域住民だけでなく商店街や行政が一体となり、共通の意識を持って取り組んでいく必要がある。

以上